

## ウトロ海域部会 平成25年度実行計画（案）

### 1. 3カ年事業の総括

ウトロ海域部会による3カ年の事業では次の事項について一定の成果が得られた。

海鳥研究者と海域利用関係者間の相互理解を進め、連携が図られたとともに、知床を代表する海鳥であるケイマフリについてウトロ地区における認知度を上げることができた。

ケイマフリをはじめとする海鳥を知床世界自然遺産地域の自然観光資源として活用しながら保全する活動が進められ、多様な主体が協力して実施する地域協働型の活動を行うことができた。

3カ年事業にて「ケイマフリデコイを活用した航路設定」や「観光船からの海鳥等観察記録」といった海鳥等の野生動物の保護と海域における様々な産業活動の両立を図るために継続すべき/継続できる地域協働型活動メニューが得られた。

平成24年度中に課題整理等の準備を行い、平成25年度にこれら活動メニューを継続的に行うための仕組み作りを行う必要がある。

### 2. 平成25年度の重点事項

#### 1) ケイマフリデコイを活用した航路設定

デコイを活用したルート設定の手法・自主ルールを確立する。

- ・設置撤去手法の確立により、海域利用関係者による作業の分担が可能となる。
- ・ルールの確立により、地域協働型活動による海鳥の保全について外部にPRできる。

#### 2) 観光船からの海鳥等観察記録

中長期モニタリングとしての調査から結果とりまとめの手順を確立する。

- ・観光船乗組員による調査を継続実施することでの意識の向上
- ・情報蓄積による多面的効果（対観光客、対保全戦略、多様な主体間の連携）

#### 3) ケイマフリPR活動

ケイマフリと地域協働型の保全活動を関係者が協力してPRする企画を実施する。

- ・ウトロ地域どこでもケイマフリに触れられる環境作りによる相乗効果を上げる。
- ・地域協働型の活動の運営に還元できる。

### 3. 平成25年度のウトロ海域部会の体制

3カ年事業が終了することからウトロ海域部会の体制の見直しが必要となる。3カ年事業におけるウトロ海域部会の役割は、ウトロ海域における利用と保全の課題解消のために相互理解を進め、協働型活動を立ち上げる場から、相互に情報を共有し、協働型活動を継続的に運営する場へ変化した。

ウトロ海域部会では一定の成果を得たが、デコイ活用や観察記録の手順・ルールの確立に関する議論が残ることから、平成25年度まで部会の設置期間を延長しこれを完結させ

る。平成26年度以降地域協働型活動を進める事業実施者の連絡調整の場（自発的協議会組織）に移行することとし、平成25年度から体制移行のための準備を開始する。

平成25年度のウトロ海域部会は予算上の問題もあり、平成26年度以降の事業実施体制への移行期として、助言役である専門家メンバーについては座長及び本地域の専門家には継続して部会出席への協力をいただき、他のメンバーからはメール上での助言を受けられる体制とする。

また、ルール設定や地域協働型活動の実行組織の充実のため、地元関係団体の構成メンバーに知床温泉旅館協同組合と知床民宿協会を加えた体制とする。

